

GAa1/1

8-12-3

8-12-3
同巻
海外婦人労働資料 第三号

附添看護婦と病院附添婦

労働省婦人少年局



女性と仕事の未来館



00967448

海外婦人労働資料第三号 労働省婦人少年局 (「医療業務関係職業における婦人の将来」蔵書の中より)

職名辞典に定義された附添看護婦

看護婦、附添——看護婦へ医療業務) 規定の教育の資格を習得したことが条件となつてゐる。「看護婦第三種」とはちがつて、基本的には実際の経験を通して獲得した知識を応用してつぎにのべる家政と看護の義務とを兼ねて果すもの。ベッドの敷布をかえ、病人に湯をつかわせ、その他病人の身仕度や慰安にも注意し、病人の脈搏や熱をはかり、記録し、そのほか薬を調合したり、注射をするような業務を医師の指図によつてしたり、病気でない家族の人々のために食事の準備をしたり、そのほかの家政をする。この分類中にくまられるものとしては、看護婦生とか免許附添人とか、訓練された附添人とかいう名称で定められている非専門的看護婦がある。

全連邦附添看護婦教育協会の定義する附添看護婦

附添看護婦あるいは看護附添人というのは、保健看護関係療養所や、学校や、家庭で看護を必要とする半急性の、または快復期の、または慢性の患者の在話をするために訓練された人という。彼女は免許ある医師の指図または、登録するの専門看護婦の監督のもとで仕事をし、必要に応じてはいつでも家事を助ける。

職名辞典に定義された病院附添人および看護婦助手

看護婦助手、病院附添人、病棟助手(医療業務) 病人看護において、日常の あるいは、

あまり熟練を要しない仕事をし、病院の専門看護職員をたすけ、病人に湯をつかわせ、着物を
させ、呼び鈴に答え、寝床をつくり、食物や栄養物をあたえ、病人が歩くのをたすけ、アルコー
ル摩擦をしたり、そのほかの仕事をし、部屋や設備を掃除する。専門的資格に必要な訓練や経験
をもたない婦人従業者である。註、男子従業者については「看護人」の項をみることに。

病院その他の機関における附添看護婦および附添人としての婦人の将来

医療業務に従事している人々の数からいって、専門看護婦の次に位しているのは、家庭や病院
や諸機関で病人の面倒をみる附添看護婦や附添人である。そしてその三分の二は婦人である。

グループとしてとりあげてみると、附添看護婦や附添人は、専門看護婦に比べて、はるかに相
互の間に相返があり、その務や資格において、はるかに広いところがある。四十八州中十五州
だけが、彼女等に認可制の規定をつくっている。認可制による州の取締は、この職業においては
ごく最近発達したものである。もちろんある州では、すでに早くから附添看護婦や附添人は登録
し、自然的に認可を得られるという法律があるにはあつた。最近では一九三八年にニュートーク
州において、最初の強制規定が定められた。許可を受けた附添人や看護看護婦の数が年々増して
いるにもかかわらず、それまでは、全国を通じて、この分野で働いている人は、大抵州の認可を
受けていなかった。一九四四年の報告によると、十三州で凡そ三〇〇〇〇〇人が認可を得ている。

この種の仕事をしている人々のことを摘字するために用いられている言葉は、その雇入れに適用される規定と同じように種々様々である。専門看護婦の分野では、全連邦看護婦会は、この看護業務に肉連ある型の仕事を考究するために共同委員会を設けてゐるが、そこでは、仕事において附添看護婦あるいは、附添人と呼ばれるような人々に対して、病人の看護を手傳うためにやとわれた補助従業者」という言葉を用いてゐる。この仕事に適用して州の法規で用いられている言葉は、一般に「訓練された附添人」、「認可を受けた附添人」とか「附添看護婦」といふのである。全連邦附添看護婦教育協会は、州看護婦関係立法委員会への覚書の中で「附添看護婦」といふ名を支持している。その名称が何であれ、その任務は互に融通のつくものである。

いかに雇われようと、附添看護婦や附添人は、病人に食物を与えたり、入浴させたり、着物を着せたり、みづくろいをさせたり、一定の治療にあたったりすることのほかは、家政や、おつかいのような仕事もある。病院その他の機関では、彼等は医師や学校出身の看護婦の監督のもとで働く。家庭では一人で仕事をすることが、医師の全般的指図のもとで働くことがたびある。

彼等はまた一般の病院や精神病院や、その他結核患者や整形外科の患者や、回復期にある患者や、慢性病者や年寄りの患者のための病院に働くことが出来る。または個人の家庭や、医師の診察室や、公衆保健所や、工場の設備でも働くことができる。

附添看護婦と病院附添人の戦前数とその分布状況

およそ一九〇〇の人の従業者が一九四〇年度にやとわれたが、その半数よりいく少し多いも

のが附添人として、病院やその他の機関で働いていた。そしてこのものは、附添看護婦や産婆として、個人的な病人の面倒をみていた。附添看護婦や産婆の大多数（九六パーセント）は女であつたが、病院や他の機関で働いていた附添人の半数以上（五七パーセント）は男であつた。これらの男子は通常附添人と呼ばれたが、彼等は主に傷病兵やその他の病院あるいは、病院の中で患者がすべて男である病室、ことに精神病やその他の特殊な病気をしている男子の患者のところ、で働いていた。北東部や北方中部諸州においても、南部や西部の諸州においてもの方が附添人として働いていた男子の割合は高い。

他の医療関係および看護関係の職種の人々と同じように、附添看護人や附添人は、人口に比例して分布してはいない。合衆国各地方において、またその地方内の各地区においても同様にして、地方民の利用できる看護業務の量に大きな差がある。つぎの表は病院その他の機関の附添看護婦産婆及び附添人が一九四〇年ほどのように各地に分布していたか、その状況およびその各々の場合人口に対する彼等の比率を示している。

地域別による病院その他の機関の附添看護婦・産婆、附添人の分布率と人口に対する彼等の地域別割合

地	域	合衆国				
		北東部諸州	北方中部諸州	南部	西部	
附添看護婦	産婆の全就業率	一〇〇	二七	二六	三三	一四
附添看護婦または産婆の一人についての人口		一四四五	一四五	一六七五	一四〇九	一〇八六

全附添人の就業率	一〇〇	四一	二八	二〇	一一
附添人一人についての人口	一、三七八	九一五	一、五一一	二、二〇五	一、二九一

附添看護婦、産婆は、南部の方が多く、病院その他の機関の附添人は、北東部諸州の方が多かった。しかし西部および北東部諸州に住んでいる人々は、二つを綜合してみれば、一番充分にこの種の業務の供給をうけているとみうけられた。南部は同じ推定からすれば一番この業務の供給をうけることが少かった。

田舎に住む人々は、比較的専門看護婦よりも附添看護婦の方を多く割当てられている。一九四〇年には、男子の附添看護婦の三分の一（三三パーセント）および女子附添看護婦の四分の一以上（二八パーセント）が、田舎の非農業地域および農業地域で働いていた。これに比べて、専門看護婦人は男子の二二パーセント女子の一四パーセントが田舎の地方にいたにすぎない。病院その他の機関の附添人に肉しては、これと同様の報告が一九四〇年度の人口調査からは歸うれなかつたが、彼等も多分田舎よりも都会に多くみうけられると思われる。明らかに特種な業務を供給し得る人々の報に對する人口の比較は「望ましい比率」の見地から考えられるべきである。附添看護婦については「望ましい比率」はまだ定められていない。

各州の施行する規則が欠けているため、戦前にこの仕事に入りまた去つた人の毎日の平均数を厳密に推定する方法がない。この職業の学校は大概創立されてから日が浅く、その総登録数も千代どころか百代しかなかった。被女等の訓練にたえる力が總体でどの位になるかの推定も彼に互

つもりはない。専門看護婦養成の学校を中退して、この分野に入ってきた婦人のいることは疑もない。またこの仕事について、病院その他の機関または保健所や訓練を受けたものもたくさんいる。学校を卒業した看護婦の中に個人的実習をするものがあるのと同様に、附添看護婦の多くは、ついでよく臨時に働き、労働婦人として職場に出たり、またひとつこんたりしていたしのである。この仕事に従事している人の移動は高いのが常であつた。

戦時中の変化

需要と分布における変化

戦時中の医師や看護婦の不足が、専門看護婦の上に次第に重荷を背負はせたので附添看護婦や附添人がその援助にとび出し、専門的知識と熟練を要しない任務を次第々々にひきうけるようになった。

一九四三年の始めに合衆国公務委員会地方事務所では、専門看護婦の監督の下で、傷病兵收容所で働くように「看護助手」を募集した。訓練された附添人または附添看護婦としての一年間の実習を満足に経験すること、あるいは看護婦生として少くとも六ヶ月の訓練が、これから看護助手には必要とされた。そして彼女らは、つぎのような仕事をして、専門看護婦を助けた。すなわち病人を入浴させ、向食の滋養物をたべさせ、薬戸棚、盆、コップを清掃し、病録をつづけて記入し、病人を集めたり、病室をかえしたりする仕事をし、見舞客を案内したり、電話に応答したり病人に手紙を配ったりなど。

戦争初期において陸軍は手術室で看護婦を助けてくれる「医療技術者」を募集するよう公務委員会に要請した。そして徴用された男子や女子がだんだんこの目的のために訓練された。結核、その他の療養所では、もつと給料のより工業方面の仕事に附添人が去って行つたのでびくびくした。一九四四年七月には、ワシントン地区にある政府経営のクレン、デール、サナトリウムは、一二〇人の病室附添人が必要なのに、残つた七〇人しかいなかったと報告してゐる。ワシントン州の一病室からの申込を、ある公認の看護婦学校が受けしたが、それは同校が供給できるだけの数の訓練された附添人を月一二五ドルで、全生活費も受けもつという條件で雇入れの申込みであつた。またも一つの学校の報告によると訓練を終えた生徒に対する申込みは生徒一に對して二〇の割合ではるかに供給を越えていたという。

登録病院は男子の看護人数が一九四一年の二五〇〇人から一九四三年には三一〇〇人すなわち二五パーセント増加したと報告してゐる。しかしながら彼等の仕事に對する要求が増大するにもかゝらず、これら病院で働いてゐる附添看護人は一七〇〇〇人のところで止つて変動なく附添人の数は、事実上九五、〇〇〇人から九二、〇〇〇人にへつた。この状態は三五、〇〇〇人の看護助手によつていくらか緩和されたことが、一九四三年の病院統計においてはじめて報告された。これら看護助手が常備であつたか、あるいは時間制雇ひであつたか、有給か、それとも志願制か、資格を定めた文書がなかつたため、正確にその關係を示すことは不可能である。しかしながら彼等の助けなしでは、その数も、收容病人数も増加してゐたところの病院は、その負担を処理することが出来なかつたであらうと、たしかに云ふことが出来る。

公衆保健事業において、また附添看護婦は專門看護婦の過労を救うことに役立った。たとえばニューヨークの巡回看護婦会では、十八人の附添看護婦を雇入れ、一人々々に各区域を割当て、看護婦学校出身の看護婦の監督の下に求められることをして助けた。ニューヨーク市の生命保険会社は同会社所屬の出張店に、もし資格や仕務や監督などが、一定の標準に叶えば、保険契約者の便宜のために附添看護婦を用いることを認可している。産業方面でもまた附添看護婦は、従業員の治療において登録看護婦を助けている。

附添看護婦や附添人に対する需要が、病院や公衆保健所や産業方面からどん／＼ふえるので、家庭での仕事につとめるものは、どん／＼少くなってくる。附添看護婦や附添人を訓練するため、公認の学校では、生徒の半令が若くなつたこと、へというのは、成年の婦人達は、もっと高い賃金をもらう産業方面の仕事が好きだ。生徒の大部分は、彼等の訓練を上げるのに、病院その他の機関の仕事をつとめると報告している。

家庭では経験のある附添看護婦人の助けを呼ぶ声は、天にみづくばかりであるにもかゝらず、この仕事に応ずるものはますます少くなつて行く。一九四三年にすでに「ある登録所（ホストン）では、附添婦に対する要求二七四八件を充たし、三一一三件を断つた」。それ以降つぎのような諸点の影響によつて附添看護婦に対する要求はますます大きくなつてゆく。

1. 家庭内での個人的な看護業務のために、向く登録看護婦の数が増へてきた。
2. 人員超過のため平時よりも早く病人は病院から退院させられるようになった。
3. 戦時中は、一般家庭では平時よりも多くの家族員が外に出て働き、家の仕事をする者が少

く、なつたため、家庭での看護の仕事には今までより多くの家政をふくむようになった。
又、病院が非常に満員の状態にあるので、今までより多くの慢性病患者や軽少患者は家で

養生するようになった。

5、より低度の訓練をうけた人でも、無事に果しうるような仕事は、専門看護婦加せにする
ようにするたため、今までよりもっと大きな努力が拂われるようになった。

6、個人の収入が増したため、病人が看護の仕事に対して、もっと多くの金を出すことが出来
るようになった。

家族の病人の看護を除いては、多分ほかはこれといつて経験のない婦人でもいゝある町では殆んど専門看護婦の給料に等しい給料で就職することができた。一般大衆を保護し、充分な看護を保証し、専門看護婦と附添看護婦との相違と同時に、その関係を認識することの重要なことは、専門看護婦の諸団体が早くから認識してゐた。一九四三年の秋、戦時勤務のための全連邦看護婦会議は、附添看護婦と訓練された附添人のための信用ある学校に対し、募算計画を奨励する措置をとり、これらの人々に対する適当な州の認可法規に定を促進するように、アメリカ看護婦協会にすゝめた。専門看護婦学校への入学応募者で、入学の資格がないことが判つたものに對しては、附添看護婦のための公認の学校に紹介し、この分野のことについて書いた文献を渡すようにした。(公認の課程への入学とその終了に関する普通の條件については、附録Aの(一)と(二)をみること)。附添看護人の代表者は、地方戦時看護人会議や地方看護婦登録委員会に任命を受けることができるとも又説得した。

この間、数州に於て——例えばコネティカット州やニューヨーク州——附添看護婦は、勞働水準を改善するために、彼女自身の団体を組織した。一九四四年においてこの分野を代表する唯一の全連邦組織としては、全連邦附添看護婦教育協会があつたが、この協会は公認の附添看護婦学校の指導者や教師、素人代表者および附添看護婦の州協会の代表者から成つていた。

訓練を通じて供給を増す

戦時職業の競争の結果として、附添看護婦養成の公認の学校は、一九四四年の登録では、増えるよりも減つてゐる。もつともよく知られてゐるある学校では、一九四四年には收容人員の半分以上よりずっと以下であつたし、また別のある学校では、戦前開始めのクラスに百人の応募者からたつた二十四人を送んだのであつたが、一九四四年には、たつた十四人の学生が名前を登録してゐたという始末である。

学校の授業料は金九ヶ月の課程に對して、無料から一五ドルまでのちがひがある。病院実習期間中は、生活費は一般に支給され、少しばかりの給料が支拂はれるものもある。奨学金は少ししか利用されてない。

訓練設備の拡大を考慮するため、附添看護婦教育に關する協議会が、一九四四年三月合衆国教育局の職業部によつて召集された。後に各州の職業教育指導者達の注意は、附添看護婦養成の必要なこと、そして高工業教育のため各州に配分される。連邦の財源をそのような計画の財源として用いてよいということに向けられるようになった。コネティカット、ニューヨーク、ニュージャージー、ミシガン、ミネソタの諸州では、すでに職業教育の後援の下に、この種の公認の計

画が提出されたのである。その他の公認の学校は病院その他の機関や YWCA および個人の養成所などによって経営されていた。

他方病院附添人は、陸軍、海軍及び帰還兵管理部などによって養成されていた。地方諸機関の必要に応じたため、一時帰還兵管理部では、三十面の講義を受け、実習で補充するという課程をこの仕事をするために、公務から任命された人達を訓練するのに用いていた。陸軍では入隊した医務および外科技術者（男も女も）は三ヶ月間訓練される。海軍では、もと海軍病院の病人の面倒をみるために、入隊した男子を六ヶ月訓練したが、現在では同じ仕事のために一ヶ月間に短縮した時間制を以て婦人海軍補助部隊を訓練し、それについて彼らを病棟勤務に割り当て、病院で訓練をつづける。

戦争直前すなわち一九四一年末、事業計画管理部は、病院やその他の機関で働く病室助手や看護人その他補助員を養成するため、全連邦にわたる計画をはじめた。一九四二会計年度の終りまでに、つまり事業計画管理部が中止となったときまでに、およそ五、〇〇〇人が三〇日から六〇日この計画のもとで訓練を終え、または訓練をうけていた。訓練を終了した人の雇傭率は一般に高いと報告されている。

戦時中病院つとめ人の不足することは、病院や看護の権威者や国内防衛局が予見していた。一九四一年七月にアメリカ赤十字会は一〇〇、〇〇〇人の志願看護婦助手の養成を計画した。これらの助手は一九四四年の春には一三〇、〇〇〇人を数えたが、彼等が病院で一年間に少くとも一五〇時間自発的に働くという約束を果たして、大いに附添看護婦や登録看護婦の両方の荷をかるくしてや

つた。彼等の互かに専門看護婦が益々不足して来たので、常備の陸軍看護助手としてやどわれたものもあるが、大部分常備労働にはつかわれなかつた。

賃金 労働時間 昇級

一九四二年合衆国のあらゆる種類の登録病院で、看護人や病室助手に支払われた平均の月給は生活費のための手当をも含めて七四ドルであつた。現金月俸は一月につき三五ドルから五五ドルまでの差があつた。その内容は機関によつて非常に異つてはいたが、生活費金額支給が普通であつた。融通のきかない予算が経営し、たえず増加する病人の負担に直面している公立の機関では、利益の基礎の上に経営している私立の小さな機関の場合と同様に、この種類の仕事に對しては、非常に低賃金を支拂うことは周知のことである。

ある機関では、給料は戦時中改善された。アメリカ病院協会は、ある病院では給料が一〇〇パーセントも増加したと報道している。同協会では、一九四三年には、一群の小さな病院では病室助手に對する中位の給料は、生活費の手当をも含めて九二五〇ドルであることを発見している。俸給の範囲はセロドルから一一五ドルまでの幅がある。しかしながら、戦時中各産業にかける賃金と比較すれば、給料はまだ低く、そのことは少くともこの種の仕事にみられる高い移動率の説明となる。

家庭で働く附添看護婦は、これよりむつとその金額の範囲に変動の給料と、もつと不規則な年収入とに甘んじさせられてゐる。不況時代には、彼等の多くは、生活費にも足りない額の低

賃金で働いて居り、又他の者はたえず仕事があるように病人をつかまえるのが困難であつた。ところが戦時中には、ひどく不足している町村では、附添看護婦は専門看護婦がうけとるのと同じ位、否それ以上を稼いでいた。

一九四三年八つの都市では、附添看護婦業務に対する料金は、次のような額にわたつていた。
一日八時間勤務に對して四ドルから五ドルへ登録看護婦に對する地方の賃率より一ドルから二ドル少い。一日十二時間勤務に對して五ドルから六ドル、二十四時間勤務には六ドルから七ドルへ登録看護婦に對する地方の賃率より三ドルから四ドル少い。

家事をも併せてしなければならぬので、家庭における附添看護業務の特徴は、自然長時間にわたりやすい。しばしば十二時間、二十四時間勤務が要求される。そのような場合には、全部又は一部生活費が支給される。慢性病人や重寄の病人の世話をするような種類の仕事には、無期限にわたり、他の場合短期間をけつづく。後者の場合は、家計を補充するために、断続的な仕事そのものである。就職の機会をおぼえてゐる。病院などの仕事では、就業は規則正しいが、労働時間はその機関によつて非常にまちまちである。ある病院では、八時間勤務を實行してゐるが、多くのものは十時間から十二時間勤務を要求してゐる。二十四時間勤務が病院では典型的であるが、ある病院ではもっと長く働かせる。その時間割は、病院の要求によつて様々である。例えば精神病院の附添人は、夕方の娯楽時間に病人の世話をする責任があるだらう。そして一日は普通より長時間勤務し、つぎの日に非番になるといふこともあらう。附添看護婦がもっと高い地位に進む機会はないといつてよい、というのは、監督や教授の仕事は、すでに専門看護婦や

医者と收容所などで訓練を受けた人々によつてしめられてゐるからである。しかし大きな病院であれば、制限はされてゐるが、ある程度の機会はある。例へばニューヨーク公務部の下にある精神病院では、一月一五のドルと生活費を支給する病棟監督の地位があるが、この地位には、他で資格をとつた経験をつんだ附添看護婦が応募してよい。もちろん特別に勤務成績がよいという評判のある附添看護婦や附添人はきまつた仕事を確保することができ、もつとひろく仕事をえらぶことができる。このように認可制と標準の訓練がまだ初期の段階にあるところの職業分野では、自己推せんが非常に重要である。

特別な雇用問題を持つ婦人のための雇用機会

熟達な附添看護婦にとつて特に家庭で働く人にとつて、一つの資産ともいふべきものである。もし彼女が自分で家政を掌る責任を持ち、病人の全家族の尊敬をかり取ることができれば、一層よくその家庭のものとなり切りことができるだらう。

病院その他の機関など監督のもとで働くところでは、年若い婦人の方が好かれるが、ふつう訓練を受けた附添人の場合は、二十一歳以上のものの方が、非常に若い人よりも好かれる。しかしながら附添看護婦や訓練を受けた附添人は、さまざまの状況の下で働くので、十八歳から五十歳までの婦人（時には五十歳以上の婦人も）が大抵の公認の学校に養成される目的で收容されてゐる。年令に關係なく健康は欠くことのできぬ要素である。

病院附添人の年令統計は、一九四〇年の人口調査では、まだ報告されてゐなかつたが、附添看護婦や産婆として、やとわれてゐた婦人の半数以上（五三パーセント）が四十五歳以上であり、

わづか八分の一（ヘーミ・パーセント）が二十五文以下であつた。

この職業では、結婚はハンディキャップというよりもむしろ得点であるようである。附添看護婦や産婆として働いてゐる婦人達の三分の一だけへ三四・六パーセントが独身者である。病院附添人に關してこれに相応する情報は、まだつかわれるようなものがない。

黒人の附添看護婦や附添人は、北部の諸機関と南部の白人の家庭で大部分が雇われている。黒人の経済的水準が上るにつれて、もっと多くのものが、黒人の家庭でもやとわれるであらう。個別の人口調査報告は、病院附添人に關しては使はれるのではないが、一九四〇年には一三、〇〇〇人の黒人附添婦と産婆が仕事についてゐた。あるいは、仕事を求めてをり、その九六パーセントが婦人であると報告されている。一九四〇年の人口調査報告によれば、全専門看護婦のわづか二パーセントが黒人であるが、附添看護婦または産婆では一四パーセントが黒人である。総計一、〇〇〇人の黒人の婦人が附添看護婦として働き、その上、一五〇〇人が職を探してゐた。

附添看護婦や附添人がする務めは様々であり、たえず病人と接触するため、彼等は融通がきく、感情的にもよく均こうがとれていねばならないばかりでなく、肉体的にも持久力と抵抗力とを持つておらねばならない。忍耐を弱め、気軽な動作をさまたげ、または容貌をみにくくするような肉体的欠陥は、このような仕事では、うちかつのに非常に困難であらう。

戦後の見透し

この職業分野では、統制が殆どとれておらず、完全な訓練の必要をどんなに強調しても充分と

いふところまではゆかぬかつたのであつても、この分野の見過しをつけることは困難である。しかし訓練を受けた附添看護婦と免許をうけた附添婦に対し、戦後の非常に活潑な需要のあることは予想できる。戦時勤務のための全連邦看護婦会議が、生徒を募集するのみに用いたリーフレットによれば、附添看護婦は「いつも必要であつた。それ故多分戦争が終つても、しつと多く使われるであらう。慢性病を持つ患者の長期看護のために多くの人が入用であらう」。わが国人口中、兄弟にふえてゆく男女の老齢者」の看護のために、「新しく生れた赤ん坊やその母への尊い奉仕」のために入用であらう。

附添看護婦は「しばしば家族と共に結みつける手段となることができ、あるいは精神的には元氣であるが、肉体的によわい人の役立つ年月を引きのばすこともできる」。このリーフレット、戦時中も、平時にも縁ぎ役立ちなさい、附添看護婦になりなさい」は、その題名のなかで、訓練された附添看護婦の将来を専門看護婦が期待確信していることを表現している。

全連邦附添看護婦教育協会の会長は「附添看護人は戦後の公衆衛生計画に対して重要な地位を占めることとなるのは当然であらう。戦后何十という志願看護人をもつて、適当な水準に訓練された人々にかえることは、重大な病院経営上の問題である」といつてゐる。

大多数の病院経営者のいうところによれば、戦争が終つたら、訓練をうけた附添人や附添看護婦は、志願看護人と競争することにはならないであらう。病院経営者の一人は、戦時中のことについて書いてゐる。「われ／＼病院のなかで、これら志願者の援助なしには、もとのようにやつて行けるものはほとんどないだらう」と。しかしこうつけ加えてゐる。「志願附添人は戦争の二ユーエスの様子次第で変化する。戦争が終れば、志願看護人は家庭の利害や商賣などにもどるであ

ろう。少数の例外を除いて志願看護人は多分病院から娑を消すであらう。

およそ十年位前には、次のように考えられていた。「経済的見地から、社会は病院における家事的用務をし、輕少患者のための家庭で看護したり、快復期にある患者や慢性患者の世話をするために、高度の訓練をうけた看護婦を利用する余裕がない。その看護婦達の教育は、一人々々につき、相当の社会の出費を意味している。公衆も病院も看護婦が受くべき程度の訓練をうけるたに、出費につりあうだけの給料を、この種の仕事に対しては支拂うことができない。もう少し出費がからず訓練された人を用いねばならない。このことは、これまで訓練されたい人々によつて果されたこの分野における仕事を、経費があまりかからずに、訓練された人々であきかえるために、附添人や家庭看護婦や子供の附添に対する需要を、もたらしたのである。彼等の訓練を看護婦の訓練にあわせなすべきか、それともそれは区別すべきか、又これ位の人が必要であるか、はまだ今日まで未解決の問題である。

ほとんど同時頃、もう一人の著者はこういつている。「一般に最も学識ある看護婦教育者は、つぎのことをみとめているようである。すなわち補助従業者は、病院における簡単な日常の看護のいろいろな仕事に対して利用すれば、非常に活発に働けるということ、彼女は慢性病者を看護している諸機関においては、監督のもとに普通の簡単な看護業務を果すことを許されようといふこと、そして家庭では、慢性病や不具や咽復期にある患者の世話をするのにつかうことかできその上ある程度の家政もするということなど、どの種類の仕事においても、彼女は完全に教育された専門看護婦の監督をうけ、指導され援助をうけるべきである」

しかしながら現在と同様、当時でも訓練と認可性の重要なことは認識されていた。すでに一二三軍にロツクフェラー看護教育研究委員会は補助労働者に対する需要は決定的であると結論し、彼等の機能や状態や訓練をハッキリと定義し、また登録すべきであると主張している。さらに最近H・キャボット博士は、附添看護婦を「保健系、チームの年青い仲間」とよび、「彼女等の訓練は、なおさらにされていくこと、彼女等は一年半病院の規律の下に訓練を受けるべきである」と指摘している。

戦時中、多数の男女が附添人や看護助手として、軍隊で訓練と経験とを得た。将来公認の訓練課程を終了し、必要な個人的能力資格をそなえた婦人達は、これらの人々やその他経験と資格のある附添看護婦や附添人にまいつて引けをとらずにやつてゆくことが出来るであらう。

しかしながら、訓練されない婦人達は就職がたんとむづかしくなるであらう。合衆国公務員会の最近の決議によれば、病院の附添人としての公務員の地位に対する競争は、帰還軍人の応募者が使えるあいだは、帰還軍人の応募者に限ることである。現在軍隊で働いている多数の婦人が、名誉ある退職をして後に附添人としての地位をのぞむものがあるであらうが、その数は、連邦の病院で附添人を普通必要とする数を充すのに充分であらう。

戦時中、婦人は何の監督も訓練もなしに、自己流の附添看護婦としての仕事を手に入れることができた。また地方無法な商業組織は、婦人達は二週間から一年にわたる所謂訓練課程に徴用することでもできた。

しかしながら病人と看護資格をもつものと両者を保護するため、認可制を定めようとする傾向、

訓練の標準化と州看護婦試験院による学校公認制度への傾向は、資格の低い訓練不十分な婦人達にとつて、この分野で仕事を獲得することをたんにむづかしくしてゆくだろう、しかし訓練された婦人達が充分にあつたことは今までにないので、よく訓練された附添看護婦や附添人の将来は希望がある、このような樂觀主義をしたせる根拠は、總括すると次のようになる。

1. 以前は専門看護婦が少い、体温を計つたり、日常の治療をしたりするような多くの仕事をするのに附添人や附添看護婦を利用しようという傾向がおこつてゐる。

2. 戦時中なく看護婦助手を利用したこと、から、専門看護婦や看護生徒の補充をするのに、特に訓練された人が必要であることが強調されることになつた。

3. 戦争の経験で、保健事業にあつては、一般職員看護婦の仕事を補うのに、附添看護婦を利用できるといふことがあつた。

4. 新しい治療法が発達するにつれ、今までより多くの助手が、治療中看護婦や医者を助け、また病人に治療をうけさせる準備するたのに必要となつてきた。訓練された附添人や助手が普通この目的のために入用である、例えば *Polisinalito* 脊髓灰白質炎に対するケネー式治療法の際、温熱をあてるのに用いられる温湿布のような場合、

5. 手術や出産の後で、病院からいままでもより早く病人を退院させることが、家庭での復元期を長かせ、その間看護が入用である。

6. 家庭をなすべく円満に維持することを強調する最近の風潮は、主婦が肉体的に家族員の中で看護せねばならぬ人の面倒をみるこゝが出来ない場合、必要なら家庭での看護と同時に、

家政のこととしてくれる附添看護婦の需要を産み出している。

2. 人口中老年者数が増加して行くので、このことは諸臓肉においても、附添看護婦の世話の必要をますます増して行く。

8. 戦争は長い病院生活と附添人の看護を要する退役軍人の数を増した。

9. 精神的なあるいは神経性の病院に苦しんでいる人々の入院が増して行くがこのことが精神病院における訓練された附添人の需要を増す。

10. 結核病または慢性病患者の入院のふえることは、彼等の看護をするための訓練された附添人の需要をたえず増すであらう。

11. 専門看護におけると同様に附添看護においても時間制労働が蔓延して来たが、このことは特に必要とする場合に依りて看護に従うことのできる人の数をますますことゝなる。

戦争の悪風は、^{病へ看護}専門看護と附添看護の両方のグループにはっきり区別したが、しかし相互に肉親ある役割を定めてくれたことは有益であつた。戦時の必要として、専門看護婦と附添看護婦の両者の需要を扱ってきた専門看護婦登録所は、戦後も同じ仕事をつづけるであらう。この登録所では、専門看護婦の職の必要を需要と、附添看護婦で適当に、そして多くの場合一層上手にみたすことのできた需要との向の区別にもとづいて、経験による実体をきつぎあげたのである。訓練をつけた附添人については、よく知られてゐる病院経営者である。A.C. バックメーヤー博士はかいてゐる。「有給の看護婦訓練をうけた附添人は今後存続すべきものと信じられてゐる。近代医学、特に病院で用ゐられるものは、専門的に訓練をうけた有能な看護婦の働きを必要とする。

彼女の教育を一層改善することや、看護婦学校をさらに高い水準にあげることを期待すべきである。又つぎのようなことが予想される。すなわち、これからの専門的に教育を受けた看護婦は、看護業務のうち厳密な専門的な面にもっとその時間と努力をさけ、比較的簡單な日常の専門的でない看護活動をするには、訓練をうけたもっと多くの附添人を監督することに后るだらう。

よく訓練された専門看護婦、およびよく訓練された附添看護婦は、協力して戦後の公衆に、その必要とする医療上や保健上の奉仕をするために、医師やその他の医療団のメンバーを助けることができる。そうして大衆もまた、附添看護の分野で職をついで持つとする多くの資格ある婦人達と共に、大衆自身を保護するための標準をうちたて、守つてゆくことに協力することになるのである。

